

2009年8月

2009年 東京大学教養学部 夏学期
全学ゼミナール「地球温暖化と経済学」講義感想文
(履修登録者 25名、合格者 21名、感想提出者 20名)

山口 光恒

1. 文科Ⅱ類2年

私は巷で騒がれている環境問題に非常に興味を持ちまして、しかもこの全学自由研究ゼミナールでは「地球温暖化と経済学」というもので、地球温暖化問題を経済学という別の観点から考えることができるのではないかと思ひまして履修させてもらいました。この全学ゼミは去年もやっていたのに、どうして気付かなかっただろうかと少し驚きました。同じクラスの友達と履修の話をしたところ、この全学ゼミを取っていたそうで、「すごく良い授業で、きついけど一年間を通して一番有意義だった授業」と言っていました。これを聞いて受けたいと思ひました。一方、ついて行けるかどうか不安でした。授業を受けてみて、何とかついて行けそうでしかも非常に知識がもらえる、とてもためになると思ひて、履修を決めました。

授業では経済学という側面から環境問題、特に地球温暖化について考えることを教わりました。今まであまり深く考えたことがなかったような効率性のことも教えられました。以前私は環境問題に今すぐにでも全力で積極的に取り組むべきだと考えてきましたが、授業を通して自分の考えがいかに浅いかがわかりました。効率性の悪い解決策や発展の持続不可能の問題解決は当然ながらやるべきではなく、現実的で実行可能な政策が望ましいと思うようになりました。

一年生の時とは違って、単位を多めに取っておかなければならないというプレッシャーがなく、暇もでき割と自分の興味のある授業を選びました。1年の時に授業でやっていた知識があつてこの授業のレベルについて行けたので、2年の時に取って良かったです。駒場キャンパスの他の大人数講義と違って少人数で緊張感を持ちながら勉強することができました。私もクラスの友達と同様にこの授業が最も有意義な授業の一つで、このゼミに出会えてすごく良かったと思ひています。そして、このゼミを是非他の人にもお勧めしたいです。

2. 文科Ⅱ類2年

山口先生を囲む会が楽しかったです。冬学期にやると仰っていた、グループワークやディスカッションが楽しみです。

3. 文科Ⅱ類2年

初めにも書きましたが、駒場に入ってから色々な授業を履修してきました。駒場の授業は第二外国語をのぞくと基本的にマスプロが多く（これはこれで効率的に知識が吸収でき、大学である程度専門的な勉強をする際に知識は不可欠であるので一概に否定はできないですが）どうしても「砂漠」になりがちです。しかしこの授業は教官との距離がとても小さく良かったと思います。また経済Ⅰで習った需給曲線が実際にどのように応用されるのかがわかり、今後経済学を学ぶ上でのモチベーションが高まりました。後期も履修する予定ですので、今後ともよろしくお願いします。

4. 文科Ⅱ類 2年

一学期間、ありがとうございました。少人数の講義形式のゼミは初めてで、突然質問を振られて焦ったり雑談に笑ったりと、これまで受けたどの講義でも得られない不思議な緊張と充足感を得ることができました。経済学は実学的側面を多分に含むものだと思いますが、やはり最前線の状況と絡めての議論はとても刺激的でした。

温暖化関連の情報の中でいったい何が本質的なのか、という内容が最も自分にとって有益だったと思います。これから様々な場面で接していく温暖化問題への有用なアプローチが学べました。重ねて感謝致します。

5. 文科Ⅲ類 2年

この授業を受講させていただいて、本当に嬉しかったのは、地球環境問題（特に地球温暖化）について経済学的な観点から体系的に学べたことです。もともと地球環境については興味があり、前年度から積極的に地球環境系の授業を履修していたのですが、技術的な内容や、地球環境問題全体を俯瞰することに重点を置いた内容のものを多く履修していたため、文系的な、経済学によるアプローチで地球環境問題について学ぶというのは、ほぼ初めてだったと言っても間違いないと思います。また、経済に関する授業をまったくと言っていいほど履修していなかったこともあってなのか、経済が深く関わってくる回の授業は特に難しく感じ、理解できていない部分もかなりあると思います。しかし、理解できたところを足掛かりに、地球環境と経済学について学んでゆくとても良い機会になりました。経済学というと、とにかく難しいイメージがあり、何かと敬遠しがちだったのですが、今回受講させていただいたことで以前よりもずっと興味を持てるようになったので、これをきっかけに、まずは復習から始めて、どんどん学ぶことができればと思います。

また、先生は IPCC のリードオナーをされているということもあり、IPCC が具体的にどのような仕組みで、どのような活動をされているのかということを知りたいと思っていた私にとって、IPCC についての話をお聞きできたことは、非常に嬉しかったです。また、政

府内の会議や、国際会議などの内容をタイムリーにお聞きすることができたのも、とても面白かったです。

授業後に、ゼミ生とお話しただけの機会をいただいたことも、非常に貴重な体験でした。将来どのような道を進んでいくか考えるにあたり、先生のお話は大変参考になりました。

様々な点で、とても贅沢な授業だったと思います。来学期も楽しみです。

6. 理科Ⅱ類2年

私はこの講義を受けるまで、経済学的アプローチに潜在的嫌悪感を抱いていた。具体的には、環境問題をお金の問題やコストの問題で片付けるなんて、といったところである。理系のため、技術に対する憧れもあるからであろう。しかし、この講義で、理系の生み出す技術が適切に社会の利益に反省されない、温暖化ならばCO2削減の技術の導入に時間がかかるのは、コストによる問題や、経済学的アプローチによる技術革新へのインセンティブが不足しているのではと考えるようになった。今後は、セクター別アプローチや、炭素マーケットについてより詳しく知り、自分の意見を昇華させていきたいと思うようになった。

7. 理科Ⅱ類2年

ただ二酸化炭素を削減すればいいのではなく、経済面からみた効率性や、国際競争など、様々なことを考えなければいけないのは当たり前だが、意外に見落とされがちなことだと思う。今まではあまり環境問題に関する本を読んでいなかったが、マスコミから自分が理解した内容の浅さを痛感した。排出権取引は、ただ出る場所を変えているだけでけしからん、といった意見や、アメリカが京都議定書に参加しないのはただのわがままだ、といった話は、文字通りの意味を取るだけでは足りず、よく勉強しないと真意はわからないと感じた。もっとも、発言者に真意があるかは疑問だが、マスコミやその他全てにおいて、情報を自分の頭で考えて、感情論に騙されないようにしていきたい。また、少人数授業であったにもかかわらず積極的な発言をできなかったのは反省である。世界のエリートと比べて、日本で育った人は個が弱いと感ずるので、個を主張することを恐れずにしていきたいと思った。国際会議で英語をゆっくりしゃべれ、ジョークは言うな、と言えることを目標にしたい。

8. 文科Ⅰ類1年

もともと環境問題には興味があったのですが、今までは、経済学的・数学的に環境問題

を考えたことはなかったので、この講義はとても新鮮なものでした。講義では、エコブームで車一台当たりの排気ガスが減っても、車の台数が増えたり、走行距離が伸びたりすれば、全体での排気ガスはむしろ増えるかもしれない、というような盲点を突かれてばかりで自分の考えの足りなさを思い知らされました。将来は、国連で環境問題に取り組むことも考えているので、今回の講義で学んだ考え方をしっかりと身につけておきたいと思っています。他に、日本企業の横並び志向や「お上に従う」という行動の仕方にとっても興味を持ったため、今後、学習を積んでいきたいと思っています。

1 学期間ありがとうございました。

9. 文科 I 類 1 年

正直に言って、火曜日の 5 限というのは私にとって大変な時間だった。その日は 1 限から 4 限までずっと授業があったし、3 つは必修科目であり、体育まであったのだ。しかし、それでもこの講義にでるのは楽しかった。この講義にでると、今までの自分の世界にはなかった、新しい知的な世界に足を踏み入れたように感じられた。それは、教授が世界的な活動をしていることや、授業後にしばしば ECONOMIST 誌をいただいたことに起因しているようにも思えたが、おそらくそれらは本質的でない。私にその気持ちを与えたものは、この授業の題材が、地球温暖化と経済学という、どちらも広大な学問領域をもった分野の融合地点であったということと、教授が私たちに世界的な視野を絶えず求めていたということだろう。とにかく、この講義は毎回とても興味深かったし、これからもその興味深さは衰えず、一層深みをもつに違いない。来学期が楽しみである。

10. 文科 I 類 1 年

1 学期の授業全体として、私は「自分で考える」ことの難しさを感じました。

私はこれまで環境問題について自分から調べものをしたりしたことがなく、ただ興味だけがあり授業を選択しました。最初の授業で、先生が公害問題と地球環境問題の違いなどを生徒に質問していった際、私は必死で考えましたが、わずかなことしか頭に浮かびませんでした。帰ってレジュメを眺めて、こんな簡単なことにあれだけ考えていたのかと思います。驚きました。

私にとって地球温暖化と経済学の授業は、1 週間の授業の中で最も頭を使う授業でした。

11. 文科 II 類 1 年

もともと地球温暖化を経済的な手法で解決する、という考え方に曖昧ながらも興味を抱

いていたので、このゼミを履修しました。思ったとおり、授業内容は私がまさに興味のあるものだったので、とても面白かったです。授業を通して、環境問題の解決にはやはり技術面だけではなく、経済的な面からのアプローチが不可欠なんだ、と痛感しました。

1 2. 文科Ⅱ類1年

環境問題についてはこれまで多くのことを学ぶ機会があったが、経済学という新たな切り口から学ぶことで、これまで知りえなかった多くの考え方を知ることができ、興味深い講義だった。例えば「How clean is clean?」という概念について。私は、環境問題について「今までの常識をひっくり返すような大きな技術発展がない限りは、いくら技術を投入しても解決には至らないこと、だから問題」というようなイメージを持っていたので、コストという制約さえなければ、技術を総動員してもっと環境を良くできるという事実自体が新鮮だった。経済学は、前提条件さえ決めてしまえば回答は数学的に求められるということを知り、逆に前提条件の方が疑問の余地があるように思われた。例えば、衡平性を保つためにどのような議論があるのか、などはもっと理解する必要があるように感じた。倫理や技術などいろいろな要素が複雑に絡み合う環境問題だが、経済学的観点から、それも本当に導入部だけであるが身に付けられたことは、これからどんな生活を送るにしても関係していかなければならない環境問題を、新たな視点から考えるきっかけとなったので非常に有益だった。

1 3. 文科Ⅱ類1年

「環境問題とはなにか.....」と質問されたら、「気候の変動、海面の上昇、災害の頻出」と答えて、「それじゃ、どのようにしたら、いいか.....」と質問されたら、「国際機関や各国の政府を信じてまかせる」と答えるのは山口先生の授業を受ける前の私でした。しかしながら、山口先生の授業を受けて、地球温暖化と経済学の関わりに対する認識が変わりました。環境問題に関する記事を読むとき、記者が聞いた意見をそのまま受け取るのではなく、授業で習った知識を生かして内容を分析することができるようになりました。

また、環境と経済学に関する専門的な知識のみならず、大学でどのように勉強したらいいか、大学生活では何を重視すべきでしょうかなどを教えていただきました。

最後に、先生の授業を聞かせていただき、本当にありがとうございました。冬学期もまたよろしくお願い致します。

1 4. 文科Ⅱ類1年

レジュメが丁寧で説明もわかりやすかったです。何よりOECDの会議など、世界の最前

線で活躍している方なので、話してくれる内容もとてもホットな事柄が多く、興味深い話をたくさんしてくれました。

15. 文科Ⅱ類1年

一年の夏学期に地球温暖化と経済学のゼミに参加しました。先生の話聞いて、今まで知らなかった世界が開きました。今の世界では、先進国と発展途上国などの富の差が大きく分かれ、各自の立場で自ら自分の利益を守ろうとしているが、これからは全人類の立場で問題を解決し、お互いに助け合えることを祈っています。

三年からは経済学部に進学するので、これからの勉強に役立つと思います。このゼミでわからなかったことや基礎知識などもだんだん身に付けていきたいです。

16. 文化Ⅱ類1年

地球温暖化と経済がどう関係しているのだろうかという疑問を抱いて受講した私ですが、授業は期待以上に面白かったです。一つ目は内容面です。地球温暖化の解決策には直接規制や間接規制など様々なものがありますが、それらの手法をただ知るのではなく、比較しそれぞれの長所・短所を見ていくなどということを行ったため、どの解決策も簡単には国際的合意には至らないという現実が分かりました。二つ目は山口先生ならではの視点です。先生は IPCC のメンバーということもあり、国際的な立場からみた日本の対応策について詳しい話をしてくださったし、また国際舞台に立って意見を言う時にどのようにしているかなどご自身の体験談もしてくださった。私はそのような普段聞けない話、それも自分の将来に深く関わるような話、を聞くことができそれだけでも講義を受けたかいいが合ったと感じました。夏学期は冬学期に向けた知識吸収の時期でしたが、知識吸収とともに地球温暖化問題への自分の視点作りにもつながったと思います。そのような機会を提供していただきありがとうございます。

17. 理科Ⅰ類1年

この講義で学んだことは環境問題について何が正しくて、何が間違っているのかを自分で考えて見極めることの重要性です。テレビなどでよく聞くのはそもそも地球温暖化があるのかという話ですが講義で不確実性を考慮したうえで決定していかなければならないということを知り、今までの地球温暖化に対する疑問が解消されると同時に不確実性を自分で見極めていく必要があると感じました。他にも、僕が完全に正しいと思っていた新聞記事のいい加減さを先生が指摘したとき自分で考える必要性を感じました。

また、この講義を通して自分の考えをうまく相手に伝えるという課題も見つけることがで

きました。講義で先生から意見を求められた時恥ずかしくて自分の意見を言えなかったり、イタリアントマトで集まった時もほんとはいろいろ聞きたいことがあったのに聞くタイミングを外してしまったりして聞けなかったのもとても残念でした。自分に自信をもって意見を言う練習として冬学期にやると言っていた模擬ディベートを楽しみにしています。本格的なレポートを書くのは今回が初めてなのでレポートの書き方についてアドバイスをいただければ幸いです。

先生の講義はレベルが高く、求められるのも高度なレベルなのでときどき理解できないこともあるのですがもっと必死に勉強して食らいついていこうとおもいます。今学期はたくさんの方の事を教えていただきありがとうございました。来学期もよろしくお願ひします。

18. 理科Ⅰ類1年

非常に興味深く、面白い授業でした。山口先生の説明も丁寧で分かりやすかったです。地球温暖化に興味があってこの講義をとりましたが、経済を全く勉強したことのない私でも、なんとかついていけました。理系の私は環境問題について普段は技術的な面から考えることが多いのですが、この講義で、実際に対策を行う際に重要なコストや衡平性という視点を養えたと思います。ただ、レポートを書きながら、講義では理解できていたことも復習しないと忘れてしまっているということに気づかされたので、これから冬学期に備えて復習したいです。

19. 理科Ⅱ類1年

理系でありながら経済学にも興味があった私は、いくつかの経済学関係の総合科目で迷っていましたが、初回の授業での先生の穏やかながらも熱い語りに魅せられて受講を決めました。

毎回の授業は本当に充実した内容で、先生が出席された会議での経験談や最新の国際事情などのお話もとても興味深かったです。講義の内容は私には難しいと感じるところも多々ありましたが、その難しさは「もっと学びたい」というモチベーションアップにつながる良い刺激となりました。ただ「環境を守ろう」「地球温暖化を止めよう」と主張するのではなく、経済学的視点から冷静に実情を把握し、最も妥当な対策を考えていくという（自分の中で）新たな視点を得ることができたと思います。授業中には意見を求められることも多く、ただ受け身で「授業を聞く」だけでなくそこから「自分で考える」ことの難しさをひしひしと感じながらも、「これが大学での学びなのだ」と実感していました。

7月に行われた先生との懇親会でも今後の大学生活の糧となるようなお話を聞くことができました。4ヵ月間、本当にありがとうございました。

20. 理科Ⅱ類1年

環境問題に対して、経済学の観点から考えてみるのが面白く、どんどん興味が出てきました。経済学の基礎の内容も、いま社会で起こっていることと関連づけられていて、ひきつけられる話ばかりで、すごく楽しく授業を受けました。先生の講義を聴いていると、もっと色んなことを勉強したくなってきました。事業開始前のちょっとした雑談を聞いたことや、学期最後の食事会は、これから社会に出るにあたって、本当に貴重な経験でした。山口先生の考え方や生活などは尊敬することばかりです。あと半年授業を受けられてとてもうれしいので、たくさん吸収して、自分の考えを人に伝えるように表現できるようになりたいです。